

投与プロトコール 初回2週6週、以後8週間隔 《開始時基準 PS:0~3(4) 100歳以下》		投与量	投与日	投与時間	備考
前投薬	アセトアミノフェン錠(200mg) ネオマレルミン錠(2mg)	2錠 1錠	Day1	レミケード開始30分 前までに服用	
ルートkeep	生理食塩液	250mL	Day1	3回目までは、2.5時間かけて、 その後、1.5時間かけて	
①	レミケード 3mg/kg	mg	Day1	下記	
	生理食塩液	250mL		3回目までは、2時間、その後1時間	

<使用上の注意点>

☆緑内障、前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患のある患者は、ネオマレルミン錠は禁忌。  
(オロパタジン錠等へ変更)

【レミケード】

◆infusion reactionがレミケードの投与中または投与終了後2時間以内に多く現れるため、緊急時の対処について  
念頭におくこと。

また、遅発性過敏症(再投与の場合)が投与後3日以上経過後にあらわれることがあるので注意する。

点滴投与中から投与終了時まで、30分おきにバイタルチェック(血圧、脈拍、体温)

異常を感じた際は、速やかにナースコールするよう患者に説明すること。

投与中、異常を訴えるナースコールがあった際は、

- ・症状が強い際は即座に点滴を停止、主治医へコール。
- ・症状が軽い場合は、10ml/hへdownして様子を見る。

(具体的対処)

再開時は、滴下速度10ml/hより開始し、症状に異常がなければ30分後20ml/hに変更し、以後慎重に経過観察を行い、30分毎に滴下速度をあげていく。

infusion reaction: 発熱、発疹、安静時血圧20mmHg以上の上昇あるいは低下、胸部不快感、過呼吸、呼吸困難、咽頭・喉頭浮腫、気管支痙攣

その他の副作用: 遅発性過敏症(3日以上経過後発生するアレルギー性反応)、感染症(肺炎、肺結核、真菌感染症など)、抗核抗体・抗dsDNA抗体陽性化を伴うループス様症候群(関節炎、筋肉痛、発疹などの症状)、白血球・好中球減少症、肝機能・腎機能障害など

<投与時の注意点>

【レミケード】

レミケードの投与速度は、infusion reactionに注意して、少量投与より開始。

最初の15分は点滴速度80ml/h、その後、infusion reactionがないことを確認後、3回目まで(2時間投与の場合)は残量を1時間45分で滴下、4回目以降(1時間投与の場合)は残量を45分で滴下する。

レミケードの投与サイクルは、初回投与後、2週、6週に投与し、以後8週間の間隔で投与すること。

無菌・パイロジェンフリーのインラインフィルター(ポアサイズ1.2ミクロン以下)を用いて投与すること。

レミケードは、点滴静注用としてのみ用い、皮下・筋肉内には投与しないこと。また、独立したラインにて投与するものとし、他の注射剤、輸液等と混合しないこと。

★投与は輸液ポンプを用いて行う。

クローン病は、6週の投与以後、効果が減弱した場合には、体重1kgあたり10mgを1回の投与量とすることができる。

<調製時の注意点>

【レミケード】

◆ 溶解後3時間以内に投与開始をすること。

21Gあるいはさらに細い注射針を用いて、1バイアル当たり10mlの注射用水(生理食塩液も可能)で溶解する。

バイアルを回転させながら緩やかに溶解し、溶解後は5分間静置すること。(抗体蛋白が凝集するおそれがあるため、決して激しく振らず、長時間振り混ぜないこと。)

蛋白製剤なので、溶解後の性状として、無色から薄黄色及び乳白色をしており、僅かながら半透明の微粒子を含むことがあるが力価等に影響はない。変色、異物、その他の異常を認めたものは使用しないこと。